

本草圖譜

穀部

共

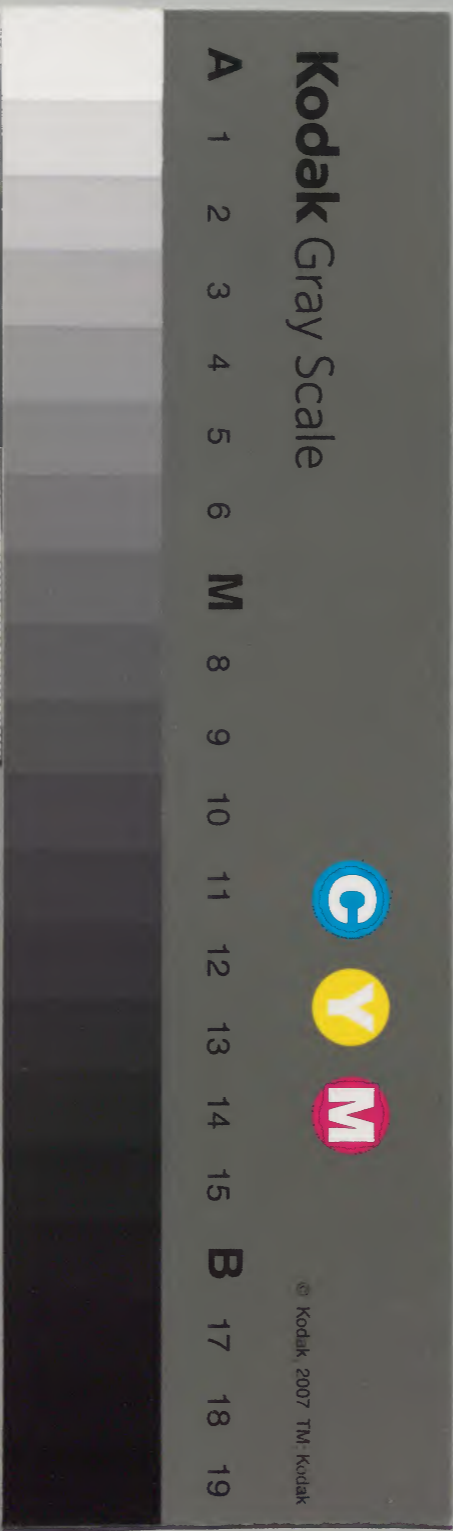
三六八

農商務省  
圖書  
第二十  
號  
冊  
共

和書門  
八四二  
七二  
冊架函號類

內閣文庫  
和書  
八四二  
七二  
冊架函

內閣文庫	
番號	和 8424
冊數	72 (38)
函號	196 190



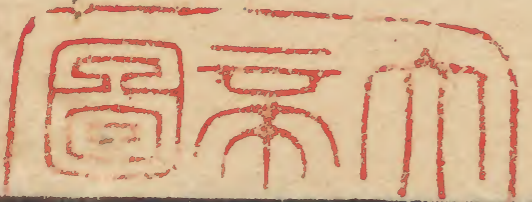
# 本草圖譜

本草圖譜卷之四十二目錄

明治十二年購求

穀部

<p>苧草 あつむき 二</p>	<p>薏苡仁 とむき 四</p>	<p>二種 あふしりま 一</p>	<p>一種 單辨うりあつて 白色のまの 八</p>	<p>一種 十葉うりあつて 白色紅辺のまの 一</p>	<p>一種 單辨うりあつて 白色紅辺のまの 九</p>
<p>篩草 こまき 三</p>	<p>一種 すま 五</p>	<p>粟子 けい 七</p>	<p>一種 十葉うりあつて 白色のまの 一</p>	<p>一種 單辨うりあつて 白色紅辺のまの 一</p>	<p>一種 單辨うりあつて 白色 白辺のまの 一</p>



本草圖譜

卷之四十二

穀部

一種	單瓣四つて白色 紅辺のもの	十一種	單瓣四つて紅色 淡紅辺のもの
一種	單瓣うりあつて 紅色淡紅辺の物	十一種	千葉うりあつて 紅色淡紅辺の物
一種	單瓣四つて紫色 紅辺のもの	十一種	單瓣うりあつて 紫色紅辺の物
一種	千葉うりあつて 紫色紅辺のもの	一種	單瓣うりあつて 紫色淡紫辺の物
一種	千葉うりあつて 紫色淡紫辺の物	一種	單瓣四つて紫色 淡紫辺のもの
阿芙蓉	けいのやふ	麗春花	いあけ
一種	物印忙の圖三種	十五	千葉紅白雜色三種

本草圖譜卷之四十二

東都 岩崎常正 著

穀部



本草圖譜 卷之四十二 金 一

苧草

みのこめ

まろくひき

ちろひき

一名 苧

通

蕪

上同

苧米

註類本草

守田

雅

漚側或ハ田地ノ生ハ宿根枯ナリ春早く葉を生ハ形細長ク音  
 麥根ノ如ク莖を抽ク數寸或ハ一二尺葉互生ハ柄ナ長キ  
 穂ト多シ枝アリ直ニハ田ノ畝ナ小ナ多ク重リ着ク初夏熟シ  
 白ク落テ自生ハ村民子ヲ採リ糊トスル又屠者子実ヲ採リ飯  
 トク食ハ穀田ノ毒ナ中リ發熱トスルヲ解ナ故ニマロクヒキ等ノ  
 名アリ皇守田爾雅ノ鄭注ナ即童梁也一種米得數粒而  
 易墜若一明年復生故謂之守田トス



本草綱目

卷之四十二

一

節草

さつげくむぎ

たまむぎ

ふでらぎ

たまむぎ

マサツケ

ルウタクシ

海濱の砂地ふ多し奥列又相列七里濱の産ハ大葉なる葉ハ節草ノに似て潤大りて厚く深緑色又ぬんすくすに似て短し夏月葉の中より穂を抽出すと四五寸形筆の如く黄赤あり後実を結ぶ小麥の如く根黄褐色の鬚ありて土中を延ぶ又一種河邊に生るりの葉窄く香附子結ぶの葉に似て厚く深緑色光澤あり花実同



薏苡仁 いんいん とうむき とうせんむき とうそむき 別防

シントヨブスララシ 白羅 ラクレイマヨビ 和蘭  
噎珠 本草和名 引食短 感米 千金方 回々米 本草

本邦の支 薏苡仁の産する時 川穀を採りて其の真の物ハ享保  
年中初下渡る 養用又食料ト多ク故今も 藥鋪に賣野のもの  
川穀の多かる 真の薏苡仁ハ 蜀黍の如く似て 採りて 川穀に似て 浅  
綠色 互生一秋高き四五尺 枝葉を合ち 其間より 花実を生じ 其実  
大三分許り 蓋の如く 下四寸許り 上より 口あり 殼堅く 條理あり 採り  
殼を剥ぎ 仁 残る 其仁ハ 褐色の 薄皮あり 肉 白色より 麥に似たり  
味の 淡甘し 炊て 飯トす

一種 和名 ずたま 新法 ずこたま 江

ずご 東 いちご 総上 菩 不 蓼珠 和傳

川穀 本草

荒野に稀々自生し 又人家の 栽り 春月実より 生じ 葉ハ 薏苡仁に似て  
硬く 深綠色 秋月高き四五尺 枝葉を合ち 花あり 玉蜀黍に似て 短  
く 其花の下り子を 生じ 貝子の一種と云ふ 似たり 薏苡仁より  
大なり 熟すれば 紫褐色の 斑あり 殼甚硬く 碎へく 中の 一室あり  
線を串て 念珠トす 殼中の 仁あり 形 薏苡仁に似り 黒色を  
帯て 硬く 是 蘇頌 薏苡 所在 有之 春生 一面 莖高 三四尺 葉如  
黍葉 開江 白花 作穗 五六月 結実 青白色 形如 珠子 而稍長  
故人 呼為 薏苡 子 小兒 多以 線穿 如 貫珠 為 戲 一  
種 而 殼 厚 堅 硬 者 即 菩 提 子 也 其 未 即 稊 穗 也 但 可 穿 作  
念 珠 數 珠 故 人 亦 呼 為 念 珠 之 物 也

薏苡仁



あふぢのつぼみ

あふぢのつぼみ





一種

おふじのたま

形状川穀粒を二三子一に合せたる如く菊散り相列大山迎  
 うて川穀粒の親まじりて是集解の弘景出交趾者子最  
 大彼上呼為幹珠故馬援在交趾評之載還為種人誤以  
 為珍珠也其重累者為良取仁用之又雷穀の説小凡  
 使勿用搗米顆大無味時人呼為糝糝是也云々のあり糝  
 名糝米あり

聖子粟

けい

スライプコロイト 荷へウル同

象穀

詔興備 急本草

鶯粟

虞物 新志

秋月種を下り生一冬を経て潤す 莖高き四五尺葉萬  
 首似て花又あり 粒綠色三四月莖を抽て互生ハ指の  
 頭或ハ葉の同く枝を合ち莖の上青き苞を結ひ下出ハ  
 漸く花開んとして上を仰ぎ苞脱し花を開く 四辨あり中心  
 黄葉あり單辨の物 朝開き夕は葉辨共ハ脱落し子辨  
 の物ハ二三日を經て脱落す後日を經て実大あり 穀の頂ハ  
 菊花の如く四ハ小子多あり 其子白花ハ白色紅紫花ハ  
 黒色あり



一種

單瓣鋸齒  
あはれ白色  
のしら

一種

千葉鋸齒  
あはれ白色  
のしら



一種

十葉鋸齒あり  
白色紅辺のもの



一種

單瓣鋸齒  
ありて白色  
紅辺のもの

一種

單瓣鋸齒  
ありて紅色  
白辺のもの  
又十葉あり



一種



單瓣四つて紅色白迎の  
物ま〜千葉七あり

一種



單瓣四つて  
白色紅迎の  
もの



一種

單瓣四つイ  
紅色淡紅辺  
のとの



一種

單瓣銀歯  
あつて紅色  
淡紅辺の  
のとの

一種

千葉鋸齒  
ありて紅色  
澁紅辺の  
もの



一種

單瓣四  
うて紫  
色紅辺  
の物ま  
千葉も  
あり





一種

單瓣鋸齒  
ありて紫色  
紅辺の物

一種

千葉鋸齒  
ありて紫色  
紅辺のり



一種

千葉鋸齒ありて  
紫色淡紫紅の物

一種

單瓣鋸齒ありて  
紫色淡紫紅のり

一種

草薺四つて  
紫色淡紫辺  
のりの



阿芙蓉

けいのやふ

阿片通

アムを搦るに先づ白色の物を  
擇つて花紅或は此紫ろろの  
花けいと此類の汁  
液出る上少一花の糸  
脱落さる殻の中軟  
き時日中下手を以て  
花瓣を搦り去り針  
或は小刀を外皮より膜の所を刺し白  
き乳汁の如き物流れ滴るを竹刀を  
以て刮り出さし脚臺を去れ汁出  
る多し舶来の物に恐らく古今医  
流の誤の如く殻を搗爛し汁を  
煮て五倍子の末を調和し物を  
一毎搦る





麗春花時珍

ひんき

ひま

舞草

名物方言

百般嬌花鏡

胡蝶滿園春西史



苗葉聖子栗子似て小うく  
微き白しろ毛もあら花はな單たん瓣はん子こ  
辨わ花はな色いろ一いつちぢ紅こうのの子こ辨はん  
花はな多た一いつ莖かき高たか一いつ尺せき餘よ四よ  
月つき花はなあら実み又また小こあら花はな油あぶら  
南なん圃ぼ史しのの真ま美み人ひと草くさ分ぶん



一種

花黄色の物

一種

花白色の物

一種

花红色の物



物印忙々載と研の物葉ハけーの地々花  
ハ四瓣ハ黄色白色红色の數目あり  
後莢を結ぶ長クハ四五寸莖莖ハ  
角ハ似々中ハ細キ子あり



本草圖譜  
卷之四十二  
十一  
洲園



